

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873900470
法人名	有限会社 レインボープラス
事業所名	グループホーム虹の森
所在地	愛媛県北宇和郡松野町松丸551番地1
自己評価作成日	平成22年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年1月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者の状態に合った環境づくりに努め、併設の事業所と交流を図り合同レクを行い楽しい時間を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内に有料老人ホームと小規模多機能型居宅介護事業所があり、行事や緊急時には協力し合っており、利用者同志の交流もある。職員も地元出身者が多く、地域で開催される行事や催し物の情報などが入手しやすい。地域包括支援センターが中心になり進めている「地域ネットワーク会議」に参加して、地域の関係者との良好な関係構築に努めている。事業所内は季節の飾り付けや利用者の作品が飾られている。明るい雰囲気の中で利用者と職員が楽しそうに会話をしながら利用者本位のケアが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム虹の森
(ユニット名)	
記入者(管理者)	
氏名	竹本 香代子
評価完了日	22年 12月 15日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 家庭的な雰囲気の中にマンネリ化した介護にならないよう、日々新たな気持ちで接し、理念でもある「愛と真心と思いやりの心でトータルサポートするよう努力している。	
			(外部評価) 理念は運営会社の代表者が作成し、スタッフ会議で思いを職員に伝えたこともある。管理者や職員は代表者の思いを受けとめ、理念を実践の中で活かせるよう目標を作成し日々ケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) スタッフに地元の者が多いため、情報収集はできている。行事にも地域の方々に参加していただき、恐竜に取り組んでいくよう努めている。	
			(外部評価) 地域に住んでいる職員が多く地域行事などの情報が自然に入ってくる。民生委員が相談に乗ってくれたり、地域住民が情報提供してくれる。利用者が重度化しているため地域行事などに参加しづらくなってきているが、つながりを保つように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 行事などに地域の方々に参加していただくよう声かけを行い、多くの方々の参加がある。グループホームの在り方を理解していただくよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議を重ねるごとに委員にも理解してもらい、会議の直しについての意見も頂きながら情報交換を行い、サービス向上に努めている。	
			(外部評価) 併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2か月ごとに開催している。行事と同時開催をしたり、勉強会を兼ねるなど参加者にも得ることがあるような取り組みが熱心にされている。また、様々な立場の方に参加を呼びかけ意見を聞くよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センターの密に連絡を取り合い、課題について助言していただき、情報交換を行っている。研修会にも情報提供していただき、参加させていただいている。	
			(外部評価) 地域包括支援センター主催で医療、保健、福祉関係機関が参加している「地域ネットワーク会議」に出席している。その中で町職員や町内事業所などの関係者と連携促進や情報交換を行い、ネットワークをつくりをしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体的拘束については学習会を重ねながら、正しく理解し、利用者の安全の確保に全員で心がけるよう努めている。	
			(外部評価) 地域包括支援センターから資料を提供してもらったり、内部で勉強会を行い身体拘束について正しく理解している。また、言葉による拘束についても、その場で注意するなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体への虐待だけでなく、言語による虐待について学習し、日々のケアの場面についても、その都度注意するよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	(自己評価) 家族と連絡を取り合い必要に応じて対応するよう心がけている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 説明をし納得された上で契約を行うようにしている。面会時相談するようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情相談窓口を設け、ホーム内に掲示している。いつでも対応できるよう努めている。	
			(外部評価) 面会時やケアプラン作成時などに家族と話す機会を設けており、その際には何でも言ってもらえるように努めている。出された意見は、職員全員で共有し検討し合って運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の職員回で意見交換を行い、検討しながらサービス改善に努めている。  (外部評価) 毎月1回、運営会社全体の職員会議があり代表者も参加して話し合いが行われている。また、事業所内の会議で職員からも意見や提案が活発に出され、運営会社の事務長を通じて代表者にも伝わっている。代表者からの回答も職員に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) やる気のある人には、働きながら技術や資格を取るよう職員が向上心を持てるよう協力している。職員への処遇改善に心がけている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 個人個人に合った外部研修を選び参加している。月1回必ずケアマネによる学習会を行っている。内部研修も行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 近くに同業者が少ないが、当事業所、小規模多機能型居宅介護、介護付有料老人ホームがあるため、職員が交流を深めながら学習会ができるよう工夫している。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の情報を把握するよう努めている。話合いの時間を大切に、意見・要望を聞き、理解するように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 必要に応じて連絡を取り、何事も声かけをしていただくように、家族との関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人やその家族と話し合いをし、その人に合ったサービスができるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者さんと一緒に過ごす時間を大切にしている。お手伝いなどお願いし、役割作りをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 近況報告、受診報告を定期的に行いながら、行事の参加や面会を通じて、ともに共有し、その人に合った支援できるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人と家族の関係が途切れないように、面会の依頼をしたり、電話で話のできる人は会話できる環境づくりに努めている。  (外部評価) 行事の案内は、家族だけでなく親戚や知人にも行い、たくさんの方に来てもらえるよう取り組んでいる。家族との関係が疎遠にならないように面会を促すなど声かけもしている。また、行きつけの美容院に行ったり、馴染みの場所に散歩に行くなど支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 席の配置を工夫しながら全員で話し合いができるよう努めている。また、お互いがせたくものをたたみあったり、洗い物を手つだったりできる環境作りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 今後は、他施設への異動があった場合は、家族と密に連絡を取り、受け入れ先の施設等と連携が取れるよう努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんの日常生活の状況、身体の状況を把握し、その人に合った関わりを持つ。困難な時は、家族・スタッフで話し合いを持ち、その人に合ったケアができるように努めている。  (外部評価) コミュニケーションがうまくとれない利用者が多いため、職員が日々関わる中で丁寧に思いを汲み取るように心がけられている。知り得た思いはミーティングなどで職員全員で共有し、ケアプランにも反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 可能な限り情報を共有していただき、家族と密に連絡を取り合うように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 家族より情報提供を受け、スタッフを交えアセスメントを行い、その人の有する力等の把握に努めている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネが中心となり、本人やその家族の思いを反映し、本人、家族・介護職員が定期的に話し合う場を設け、日常生活をどのように支えていけばよいか検討している。	
			(外部評価) ケアプランを意識してケアが提供できるよう個別ファイルの表紙に貼ったり、ケアプランの特に大事なところに色を付けるなど工夫をしている。実施状況もチェック表を用いて確認し、モニタリングも全職員で適切に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎月職員会を設け、カンファレンスを行い、情報を共有しケアプランの見直しやケアの実践に努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者や家族の状況に応じて対応できるように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 必要に応じて地域の方々にも声かけを行い、地域包括支援センターに協力・相談に乗っていただく。ボランティアの方々にも行事に参加していただき、楽しい時間が作れるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医とは安心して相談ができる。病状によっては専 門医を紹介していただき、本人・家族と相談をし、ま た受診時の付き添いの協力を得ている。  (外部評価) 利用者は町内出身者ばかりで、利用以前から町内の診 療所がかかりつけになっている。診療所の医師も時間 外でも対応してくれるため安心できる。受診は、町外 は家族にお願いしているが、状況により柔軟に対応し ている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職員の中に看護師がいるため、利用者の健康管理につ いては相談するよう努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院時も情報提供を行い、病院との連絡を密にする よう努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族の希望を聞き、話し合いの場を作り、状況に応じ て、主治医と相談し対応するよう努めている。  (外部評価) 現在のところ終末期ケアが必要な利用者はいないが希 望している家族もいるため、ミーティングで体制づく りについて話し合いを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時の対応については、職員会で話し合い学習会を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回消防隊員による訓練を実施している。推進委員や近隣の方に声かけを行い、協力を得ている。  (外部評価) 消防署の協力を得て年2回の避難訓練を行い、1回は夜間の想定で実施している。隣接する有料老人ホームの職員も協力するなど緊急時の体制も整っている。運営推進会議には地元の消防団長にも参加してもらっている。	運営推進会議に消防団長が参加しているためさらに訓練にも参加してもらい、地元の消防団にも事業所を知ってもらい協力体制を確立することが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの人格を尊重し、トイレ・入浴時等のプライバシーを侵害しない対応に努めている。また、個人情報保護遵守を職員に徹底している。  (外部評価) トイレ誘導の際の声かけは、さりげなく行うように配慮しながら行っている。支援に入るタイミングや対応方法にも気を配り、一人ひとりの尊厳とプライバシーを守ることに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の意思を尊重し、その人に合った説明や表現方法工夫し、意思表示ができるよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの状況を把握し、見守りを行いながら好みに合ったレクや関わりを持つことを大切にするよう心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員に美容師資格を有する者がいるため、利用者が希望するときに散髪をし、家族がなじみの店に連れて行ったり、散歩を兼ねて近くの理髪店へいく。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に好みを聞いて、栄養士と相談をしながら、食べていただくよう努めている。食後の片づけを手伝っていただくよう声かけを行ったり、アンケート調査を行っている。  (外部評価) 敷地内の有料老人ホームの栄養士が献立を考案し、厨房で調理されている。介助が必要な利用者が増えているため、一緒に食事をとることが難しくなっているが、職員と利用者が会話しながら楽しく食事できている。後片付けを手伝う利用者が無理のないよう、さりげなく見守りもされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量を毎日チェックし、全職員が把握できるよう努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアを実施している。研修で口腔体操を学び、毎食前に行うよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりに合った対応を職員が把握し、時間誘導するよう努めている。毎日の申し送り時の最終トイレの時間、排便の状態を職員全員で把握し、トイレのサインを見逃さないよう注意している。	
			(外部評価) トイレでの排泄を基本としており、時間で誘導したり利用者の様子や表情をよく観察し、さりげなく声かけをしている。また、自然な排便ができるよう水分摂取量や食事にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の状態を確認し、便秘傾向が続く時は、水分補給を行い、腹部マッサージを行い、自然排便できるよう努めている。状態により便秘薬で調整を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1対1の対応を心がけ、入浴剤を入れ工夫を行っている。ADLの低下で2人介助の方もあり、浴槽にできるだけ入っていただくように心がけている。	
			(外部評価) 週3回の入浴を支援している。職員3人の介助が必要な利用者もいるが、浴槽に入ってもらよう支援をしている。入浴の苦手な利用者に対しては、声かけやタイミングを工夫しながら気持ちよく入浴してもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はできるだけ部屋からでてホールで過ごすように声かけを行っている。天気の良い時は外気欲をしたり散歩に出かけるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の服用している薬の把握・理解をし服薬介助するよう努めている。また、服薬後の利用者の状態・観察に注意し、記録を残すよう指導している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりに合った役割を工夫し、洗濯物たたみ、干し、食事の食器洗い、ホールのモップかけ、テーブル拭きなど声かけをしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日はドライブに行ったり、外気欲を行う。事業所の他の利用者さんとの交流を図るよう努めている。  (外部評価) 日常的に玄関先や敷地内で日光浴や外気浴を行っている。気候が良い時はドライブに出かけ、季節の花を見に行っている。事業所に面する道路は、坂がきつく車の往来も激しいためちょっとした散歩も危険が伴う状況である。	利用者の重度化により外出支援も困難になってはいるが、外気に触れることにより気分転換にもなるため、可能な限り行えるよう、今後の取り組みに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理のできる方が限られているため、必要時は事業所で立て替えを行うようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が希望された時は、職員が電話をかけ、利用者に代わり通話できるよう支援している。行事参加の写真など送付するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者と職員が共同で季節に合った壁飾りを作り掲示している。部屋を間違えないよう小物で目印になるよう工夫している。	
			(外部評価) 壁面には、季節を感じさせる飾り付けがされていたり、行事の写真や利用者の製作した作品なども貼られている。時にはみんなでカラオケをしたりレクリエーションで楽しんでおり、利用者が楽しめる空間づくりがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食事が終わりと、テレビの前に集まり、雑談をしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 可能な限り本人や家族と相談しながら、使い慣れたものを持参していただいている。レクで作品を作り自室に飾っている。	
			(外部評価) ベッドは備え付けになっているが、使い慣れたタンスやお気に入りの置物など自由に居室に持ち込み、居心地のよい自分だけの空間を作り上げている。入口には間違わないように大きく名前を貼っていたり、写真を貼るなどしてそれぞれに合った工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 部屋が分からない人、トイレの場所が分からない人には飾りなどで工夫している。歩行者の転倒予防に努めている。	